

津山郷土博物館だより「つはく」

# 津博

TSUHAKU

2021.5 No.108

## トピックス

- 冬季企画展・春季企画展を開催しました
- ミニ企画展「世界の布Ⅱー刺繍の魅力ー」を開催します
- 歴史講座開講中です
- 第121回・122回文化財めぐり

## 資料紹介

- 考古資料この一点① 一有本遺跡のガラス管玉ー  
小郷 利幸

## お知らせ

- 令和3年度 津山郷土博物館 行事予定



津山郷土博物館

Tsuyama City Museum

(吉田初三郎 津山市鳥瞰図)

## 冬季企画展 「津山藩の武具 ー残された文書からー」 を開催しました。

【会期】 令和3年2月20日（土）  
～3年3月21日（日）

津山藩主松平家が所持していた武具、また、戦いのために津山城に備えられていた武具について、津山藩松平家文書の中に残されていた文書を中心に紹介しました。

甲冑や刀剣、そして文書など、興味深く見入っておられました。



展示風景

## 春季企画展 「古い写真でみる津山の鉄道展」 を開催しました。

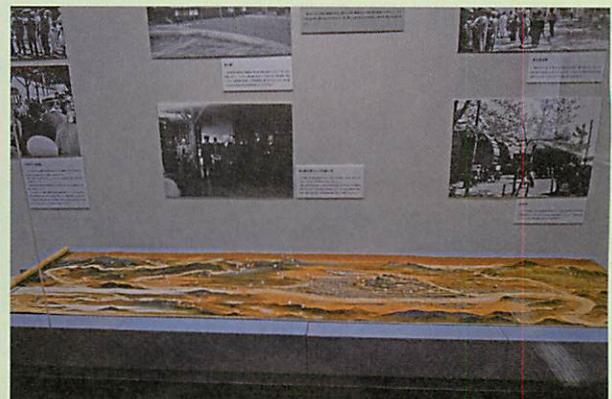
【会期】 令和3年4月1日（木）～5月9日（日）

春の観光キャンペーンに合わせ、江見写真館所蔵の古写真の中から鉄道関係の写真を集め、「古い写真でみる津山の鉄道展」を開催しました。

かつての津山駅や東津山駅の写真、姫津線全通記念で行われた勸業振興大博覧会の写真など、大正時代末から昭和初期にかけての津山の鉄道の風景が写された写真を中心に展示しました。また、津山市を中心とした観光地を描いた吉田初三郎の「津山市鳥瞰図」は、見学者の目を引いていました。



展示風景



吉田初三郎 津山市鳥瞰図

## ミニ企画展 「世界の布Ⅱ 一刺繍の魅力」 を開催します。

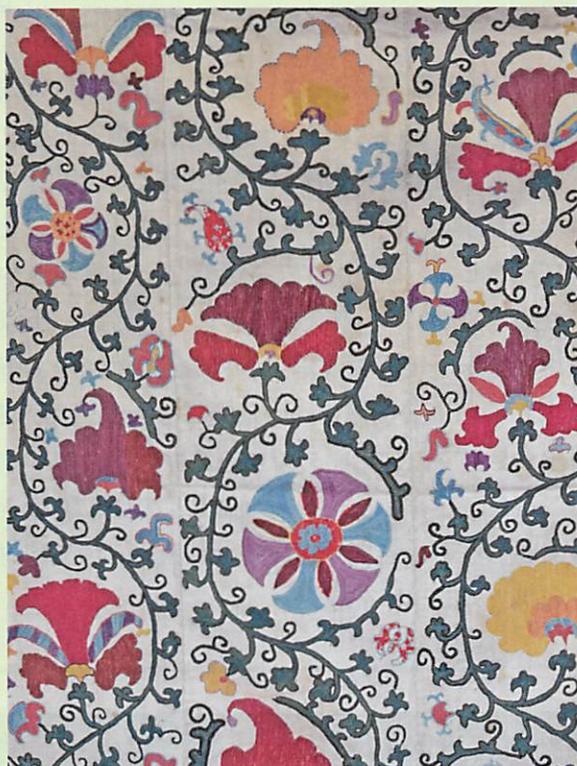
【会期】 令和3年7月31日（土）  
～9月5日（日）

【会場】 津山郷土博物館3階  
展示室の一部

布は生活になくてはならないものです。「衣」になるもの、「袋」になるもの、様々な用途があり、人々にとって一番身近な存在と言えるかもしれません。

今回のミニ企画展では花の刺繍をあしらったスザニを中心に展示します。スザニとは、主にウズベキスタンで制作されてきた大型の刺繍布で、壁掛けや掛布などとして使用されてきました。また、スザニは花嫁道具の一つで、一族の女性達が分担して刺繍をしたと言われています。

大胆な色使いと繊細な刺繍を楽しんでいただければと思います。



スザニ

## 歴史講座開講中です。

今年度は、元館長尾島治氏を講師にお迎えし、「[江戸一目図]を読み解く—[江戸一目図]に見る江戸の社会とくらし—」と題して歴史講座を開催しています。江戸一目図の画像を拡大しながら、当時の人々の暮らしなどについて解説していただきます。

(※今年度の申込みは終了しました。)

新型コロナウイルス感染予防のため、受講人数を減らし、換気などの対策を行っています。



歴史講座の様子

## 第121回 文化財めぐり ～日上から国分寺の遺跡をめぐる～

- 河辺公民館—日上天王山古墳・日上畝山古墳群—美作国分尼寺跡—  
国分寺飯塚古墳—美作国分寺跡—河辺公民館

令和3年3月20日（土）日上・国分寺地域の遺跡を中心にめぐりました。当日はどんよりとした天気でしたが、最初に美作最古の前方後円墳である日上天王山古墳や円墳が群集する畝山古墳群を見学し、北端にある「古冢」の碑（明治5年に開墾により鏡などが出土した事を記す）まで足をのばすことができました（草刈されていたのでとても歩きやすかったです）。その後、美作国分尼寺跡、飯塚古墳や整備予定の美作国分寺跡などをめぐり、解散場所の河辺公民館についた頃にちょうど雨が降り出したので、文化財めぐり自体は無事に終了することができました。往復4kmほどの比較的歩きやすい行程で、古墳や古代の寺院跡などの文化財を散策することができました。



## 第122回 文化財めぐり ～皿・平福周辺の遺跡をめぐる～

- 佐良山公民館—佐良神社—煙硝蔵—門の山・寺山古墳群—丸山遺跡—佐良山公民館

令和3年5月15日（土）皿・平福周辺の遺跡を中心にめぐりました。天気にもめぐまれ、最初の佐良神社から煙硝蔵までがかなり急な上り坂で、汗ばむ陽気のなか木立の合間を通過して、煙硝蔵にたどり着きました。煙硝蔵の中は逆に涼しく古墳を再利用したものや大規模なものもあり、中にコウモリが潜んでいて一同驚きました。門の山古墳群は、小規模な円墳で横穴式石室が採用される前の古墳です。これまでに数基が調査されており、その時の話をふまえて解説しました。また、丸山遺跡は弥生時代の墳墓で、吉備地方の墳墓によく見られる特殊器台が出土した市内でも珍しい遺跡です。往復3km程の行程で、今回はかなりの高低差がありましたが、弥生時代から古墳、近世にいたる遺跡を見学することができました。



# 考古資料この一点①——有本遺跡のガラス管玉——

小郷利幸

## はじめに

津山郷土博物館1階の弥生時代展示コーナーにガラス製の管玉が展示されている(写真1)。三十数年ぶりの常設展示のリニューアルに伴い、令和二年四月から初めて展示された。

筆者は津山総合流通センター(現津山産業・流通センター)建設に伴い、弥生時代の集落及び墳墓群の調査にかかわった。その際、墳墓群からガラス製の管玉が17点出土し、その内の1点が破損していたため、成分同定の分析をおこなうことができた。成分分析の結果、「漢青(BaCuSi<sub>4</sub>O<sub>10</sub>)」と呼ばれる顔料が検出され、平成十二年当時、日本で最初に発見と新聞でも話題になった(註1)。これらガラス管玉を中心に市内出土の弥生時代装身具についても紹介したい。



写真1 ガラス管玉

有本遺跡から出土した(図1-1、註2)。

本遺跡は、約140基の土壙墓や土器棺10基が検出された弥生時代後期の墳墓群である。その内の土壙墓49から17点まとまって出土した。副葬品はこのガラス管玉だけである。その出土状況から、一連のものとして首などにかけられていた可能性が大きい。また、約140基の多くの土壙墓が副葬品がほとんど無く、またガラス管玉が出土した土壙墓も決して大きなものでもない。ガラス管玉は、青色でガラスをらせん状にねじって棒状にして、それを長さ約2cm間隔で切って整形されている。いわゆる巻き技法(註3)で作られている。そのため、らせん状の模様が連続する事が確認できた(註4)。また、分析結果から鉛バリウムガラスで作られていた(註5)。ちなみにこの漢青は、中国の戦国時代から漢代の彩絵陶器などの着色にも使用されているようである(註6)。

## 津山市内出土の弥生時代装身具

津山市内の弥生時代の装身具をまとめたのが表1である。装身具は大きく、勾玉、管玉、小玉に分類され、それぞれ材質が、ガラスや碧玉などに分けられる。勾玉は荒神峪遺跡住居跡6(図1-18、乳緑青色、註7)のガラ

遺跡・遺構名	点数	碧玉製 管玉	ガラス製			土製 勾玉	時期	図1	註
			勾玉	管玉	小玉				
男戸嶋遺跡住居跡3 住居跡6 包含層	1				1		中期・後半	11	①
	1	1					中期・後半	10	
	1	1					中期・後半	9	
西吉田遺跡土壙墓3	28	23			5		中期・後半	12~15	②
沼遺跡A住居址	1				1		中期・後半	16	③
高橋谷遺跡3号住居址	1			1			中期・後半	17	④
荒神峪遺跡住居跡6	25		1	1	23		後期・前半	18~21	⑤
野村高尾遺跡住居址1 土壙墓	2				2		後期・前半	22~23	⑥
	1				1		後期・後半	24	
小原B遺跡1号住居址	1			1			後期・前半	25	⑦
大畑遺跡住居址16						3	後期・前半	26	⑧
有本遺跡住居跡4 土壙墓8 土壙墓12 土壙墓49 土壙墓113	1				1		後期・後半	8	⑨
	1	1					後期・後半	2	
	4			1	3		後期・後半	3~6	
	17			17			後期・後半	1	
	1	1					後期・後半	7	

表1 津山市内の弥生時代装身具一覧

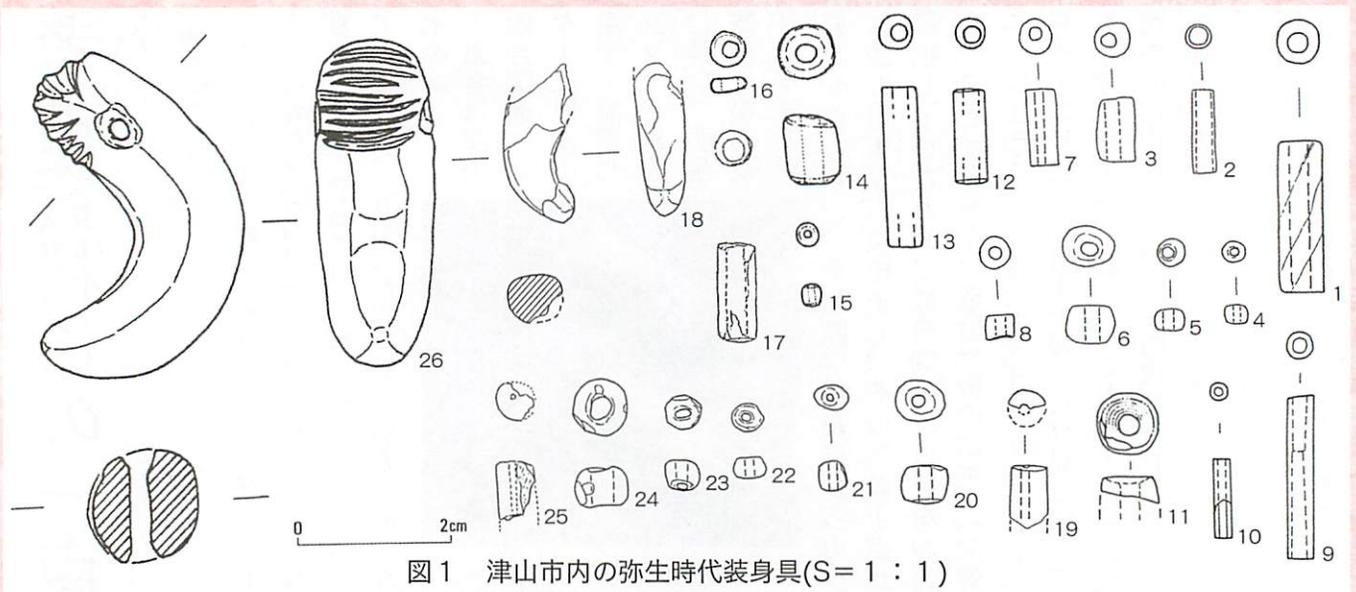


図1 津山市内の弥生時代装身具(S=1:1)

ス製が唯一で、ガラス以外では土製の勾玉が大畑遺跡(同126、註8)などで見られ、この例は丁字頭で先端に刻み目が見られるなど忠実につくられている。

管玉はガラス製では荒神峪遺跡住居跡6(同19、乳緑青色)や有本遺跡土壙墓12(同13、水色)、碧玉製では男戸嶋遺跡住居跡6(同10)や西吉田遺跡土壙墓3(同12・13、註9)がある。ただしガラス製も本例のような技法のものではない。碧玉製は長さが2cmを超えるものと1cm程の2種類がある。

小玉はいずれもガラス製で、有本遺跡土壙墓12(同4・6、青色)、西吉田遺跡土壙墓3(同14・15、青色・淡青色ほか)、荒神峪遺跡住居跡6(同20・21、淡青色・濃青色)など類例は比較的多い。色調は淡青色と濃青色などがあり、大きさにもかなりのバリエーションがある。またこの荒神峪遺跡住居跡6はガラス製勾玉・管玉・小玉が計25点出土し特異な住居であるが、さらに同遺跡の別の住居跡12からは、類例が非常に少ない銅釧(註10)が出土するなど、弥生時代の集落遺跡としては特異である。

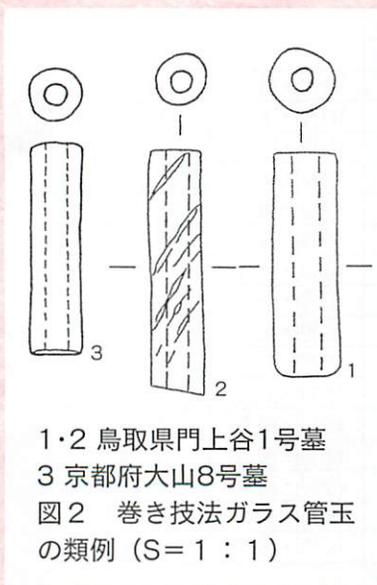
时期的には、男戸嶋遺跡や西吉田遺跡などが中期の後半で一番古く、碧玉製の管玉、ガラス製の小玉・管玉が見られ、荒神峪遺跡や小原B遺跡などが後期の前半でガラス製の勾玉・管玉・小玉が、有本遺跡などが後期の後半で碧玉製の管玉、ガラス製の管玉・小玉が

見られる。後期になり遺跡数が増える傾向があるが、出土例自体はそれ程多くない。

**ガラス管玉について**

本例と同じ巻き技法のガラス管玉について知見では、類例は県内でもほとんど見られない(註11)ため、県外の類例を中心に若干調べてみたい。

類例は、報告書でも述べた鳥取県門上谷1号墓第1主体(図2-1、註12)、同第12主体(同2、註12)や京都府大山8号墓第1主体(同3、註13)がある。門上谷1号墓は本例より長さ径とも一回り大きく、成分は鉛バリウムガラスである。大山8号墓のものは本例より一回り大きく、鉛ガラスであるがバリウムを含まないなど大きさや成分などが異なるが、遺跡ごとに規格がほぼ統一されているようである。



1・2 鳥取県門上谷1号墓  
3 京都府大山8号墓  
図2 巻き技法ガラス管玉の類例 (S=1:1)

ただ吉備地方南部では、同様な技法のものはほとんど見られないこと、山陰地方に類例が多く見られ、特に大山墳墓群の見られる丹

後地域では、海外の原料でガラス生産が弥生時代中期には始まっていることが知られている(註14)。このことから、現状では山陰經由でもたらされたと考えるべきであろう。さらに、ガラス管玉以外にも、この時期の土器に山陰地方の影響を受けたものが多く見られることから裏付けられる。

### おわりに

津山市内の弥生時代の装身具の紹介と特に巻き技法のガラス管玉を中心に紹介してきた。有本遺跡のガラス管玉の分析から、中国産の鉛バリウムや漢青が含まれていたことから、どこで作られたかであるが、現状では山陰地方に類例が多くみられることや丹後地域ではすでにガラス生産が中期には始まっていることを勘案すると、そちらからの流入の可能性が十分考えられる。ただ本例のような鉛バリウムガラスの管玉は、日本で再加工された証拠がないとする(註15)見解もあり、その場合製品自体が海外から流入されたと考えられ、詳細な流通経路については今後の課題である。ただ、本例のような山間部まで、様々なものが流通していたことは確かである。

さらに今後はそれを持ち得た人物の性格などについても、検討する必要がある。本例の近くでは、玉類が多量に出土する住居があったり、銅釧などの出土が知られているので、これらの疑問については今後の類例の増加をまって再検討したい。

註

- (1) 「津山・有本遺跡出土の管玉 顔料「漢青」を国内初確認」平成十二年四月九日付け山陽新聞朝刊
  - (2) 津山市教育委員会一九九八「有本遺跡ほか」『津山市埋蔵文化財発掘調査報告第62集』
  - (3) 藤田等一九九四「弥生時代ガラスの研究」名著出版
  - (4) 綾野早苗氏にご教示を得た。
  - (5) 綾野早苗二〇〇〇「津山市有本遺跡出土ガラス管玉について」『古代吉備第22集』
  - (6) 肥塚隆保二〇〇〇「有本遺跡出土ガラス遺物の科学的調査」(田邑丸山古墳群ほか)『津山市埋蔵文化財発掘調査報告第67集』
  - (7) 肥塚隆保二〇〇二「古代のガラス」『保存科学概論』京都造形芸術大学
  - (8) 津山市教育委員会一九九九「荒神峪遺跡」津山市埋蔵文化財発掘調査報告第64集
  - (9) 津山市教育委員会一九九三「大畑遺跡」津山市埋蔵文化財発掘調査報告第47集
  - (10) 津山市教育委員会一九八五「西吉田遺跡」津山市埋蔵文化財発掘調査報告第17集
  - (11) 岡山市内では岡山市政所遺跡の2例が知られている。
  - (12) 岡山県教育委員会一九九九「加茂政所遺跡ほか」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告138』
  - (13) 倉敷市向木見遺跡に類例がある。調査当時総社市の高橋進一氏にご教示を得た。
  - (14) 平川誠一九八八「紙子谷遺跡」『定型化する古墳以前の墓制第1分冊』、註(3)
  - (15) 丹後町教育委員会一九八三「丹後大山墳墓群」『京都府丹後町文化財調査報告第1集』
  - (16) 肥後弘幸二〇一六「丹後のガラス」『京都府埋蔵文化財論集第7集』京都府埋蔵文化財調査研究センター
  - (17) 註(6)
- 表1註
- ① 津山市教育委員会一九九九「男戸嶋遺跡ほか」『津山市埋蔵文化財発掘調査報告第65集』
  - ② 註(9)
  - ③ 近藤義郎ほか一九五七「津山弥生住居址群の研究」津山市・津山郷土館
  - ④ 概要は報告されているが、管玉は未報告。色調は淡青色、図面は担当者の資料から引用。中山俊紀二〇二〇「37高橋谷遺跡」『新修津山市史資料編考古』
  - ⑤ 註(7)
  - ⑥ 津山市教育委員会一九九五「野村高尾遺跡」『津山市埋蔵文化財発掘調査報告第55集』
  - ⑦ 津山市教育委員会一九九〇「小原B・稲荷遺跡」『津山市埋蔵文化財発掘調査報告第35集』
  - ⑧ 註(8)
  - ⑨ 註(2)、有本遺跡の土壙墓49以外の管玉・小玉も今回展示されている。

## 令和3年度 津山郷土博物館 行事予定

※新型コロナウイルスの影響で変更する可能性があります。  
詳細は決定次第ホームページなどに掲載いたします。

### ■特別展・企画展など

- ・「古い写真でみる津山の鉄道展」  
【会期】4月1日(木)～5月9日(日)
- ・ミニ企画展「世界の布Ⅱ―刺繍の魅力―」  
【会期】7月31日(土)～9月5日(日)
- ・「飯塚竹斎(仮)」  
【会期】10月16日(土)～11月21日(日)
- ・「刀剣展(仮)」  
【会期】令和4年2月19日(土)～3月21日(日)

### ■出版

- ・特別展図録「飯塚竹斎(仮)」の刊行
- ・津山松平藩町奉行日記28の刊行
- ・令和2年度年報の刊行

### ■広報活動

博物館だより「津博」

No.108：5月 No.109：8月 No.110：11月 No.111：2月

### ■教育普及活動

- ・古文書講座 全9回
- ・歴史講座 全9回
- ・夏休み子供歴史講座
- ・文化財めぐり(友の会) 5月、11月、3月



博物館だより「つはく」  
No.108 令和3年5月31日



【編集・発行】津山郷土博物館

〒708-0022 岡山県津山市山下92  
Tel (0868) 22-4567 Fax (0868) 23-9874  
E-mail tsu-haku@tv.tn.ne.jp

【印刷】有限会社 二葉印刷

### 入館のご案内

【開館時間】午前9:00～午後5:00

【休館日】毎週月曜日・祝日の翌日

年末年始(12月29日～1月3日)・その他

【入館料】一般…300円(30人以上の団体の場合240円)

高校・大学生…200円(30人以上の団体の場合160円)

65歳以上…200円(30人以上の団体の場合160円)

中学生以下・障害者手帳を提示された方は入館料が無料です

♣は、津山松平藩の槍印で剣大といい、現在津山市の市章となっています。